

## 2024年10月 下北半島・函館旅行

右城 猛

### まえがき

高知新聞観光が企画した『J-AIR チャーター便利用東北4日間下北半島・函館コース』に、高野広茂・いくよご夫妻と一緒に参加した。

10月10日(木)から13日(日)までの3泊4日で奥入瀬溪流、八甲田山、五稜郭、トラピスチヌ修道院、仏ヶ浦、大間崎、恐山を巡って観光した。

宿泊は、ホテル十和田湖荘、函館国際ホテル、むつグランドホテル。最後に宿泊した「むつグランドホテル」では高野ご夫妻と同室であった。



### 高知龍馬空港から三沢空港へ

チャーター機は、76人乗りのエンブラエル170機(E170)。今回の旅行には64人が参加していた。三沢空港で弘前・津軽コース(20人)、白神山地ハイキングコース(20

人)、下北半島・函館コース(24人)に分かれて観光することになっていた。

高知龍馬空港8時55分発の予定であったが通信機器に不具合が見つかり、その修理のため乗客は搭乗機から降ろされ、軽食代としてひとり一人に1000円が渡された。

機材が羽田空港から取り寄せられ修理が終わるまでの間、ターミナル内の「土佐料理・司」で高野ご夫妻とビールを呑みながら時間を費やした。

出発は3時間35分遅れの12時30分、三沢空港に着いたのは14時10分であった。

空港に着くと、三沢空港の職員が横断幕を持って歓迎してくれ、全員にアップルジュースのサービスがあった。



76人乗りの「エンブラエル170機」



3時間35分遅れて出発



三沢空港の職員が歓迎してくれた



三沢空港の「青森ねぶた」

青森ねぶた、弘前ねぶた、五所川原立佞武多（ごしょがわらたちねぶた）が「三大ねぶた」と言われている。三沢空港には「青森ねぶた」が展示されていた。

### 奥入瀬観光

青森県内は「光洋観光バス」で移動。ガイドは石戸谷千賀子さん。バス移動中は、途切れることなく話したり歌ったりガイドをしてくれた。69歳の高齢にもかかわらず、淀みなく言葉が次々に出てくるのには驚いた。

昼食は三沢市内の「すし処魚らく」。予定より3時間遅れていたが、お腹はあまり空いていなかった。それでも海鮮丼が美味しかったので、ほとんど残すことなく食べてしまった。



光洋観光のバスガイドの石戸谷千賀子さん



県道10号の米軍基地がある付近だけは電線が地中化されていた

奥入瀬に着いたのは16時過ぎであった。当初の予定では、2.8kmの区間をネイチャーガイドの説明を聞きながら2時間かけて散策することになっていたが、バスの車窓からの見学となった。

ただし、石ヶ戸(いしげど)、雲井の滝、銚子大滝の3カ所だけはバスから降りて見学した。前日まで雨が降っていたため水量が多く、滝は迫力を感じた。



石ヶ戸(いしげど)



雲井の滝



ロビーのショウケースに飾られた「東北こけし」



三銚子大滝



ロビーに飾られた「青森ねぶた」

初日のホテルは、十和田湖の湖畔にある「ホテル十和田湖荘」。ロビーには「青森ねぶた」や多数の「東北のこし」が展示されていた。

ねぶたでは、「青森ねぶた」「弘前ねぶた」「五所川原立佞武多（たちねぶた）」が有名である。



ホテル十和田湖荘での夕食

### 八甲田山(10月11日)

ホテル十和田荘を8時出発。天気予報では晴れであったが、昨夜から雨が降り続いていた。奥入瀬溪流の入り口で国道102号と分かれて国道103号に入る。八甲田に向かう国道は霧で視界が悪い。9時、八甲田ロープウェイ山麓駅に到着すると、青空が見えてきた。

ロープウェイは強風で運休していたようであるが、9時30分から運行するとのこと。なんと運に恵まれているのだろう。

ロープウェイの定員は100名。中国人団体客も乗っており満員であった。

山頂に上るに従って霧が立ちこめてきた。視界は10~20m。2021(令和3)年8月に来たときも山頂は霧に覆われて何も見えなく、

すぐ下山した苦い経験が蘇ってきた。

山頂駅に到着すると青空の見える最高の天気。なんと運に恵まれているのだろうと思った。

山頂の散策は時間の関係で 30 分コース。直前まで雨が降っていたため散策道はぬかるんでいた。水溜まりを避けて道の両側を歩いていたら、私の前を歩いていたツアー客の男性が、スリップして後方へ転倒し、ズボンや服が泥だらけになった。それを見て、水溜まりなら安全と思い足を踏み入れたところ、ぬかるみに足を取られて滑ってしまった。そのとき、尻餅を着かないように左足で踏ん張り両手を着いて支えたところ、左足の太ももの筋を痛めたようである。



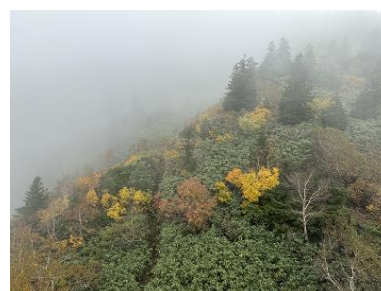
最高の秋晴れ



八甲田山の散策路のスタート地点



ロープウェイ山頂駅



霧が掛かった中腹部の紅葉



複線交走式普通索道方式のロープウェイ  
途中でゴンドラがすれ違う

### 八甲田山から函館へ

一般国道 103 号を青森市に向けて走っていると、車窓の外に「岩木山展望所」「八甲田春山除雪隊発祥の地」の文字が刻まれた木材のモニュメントが目に入った。青森市浜田で一般国道 7 号に入る。



八甲田春山除雪隊発祥の地



新青森駅

新青森駅からは 12 時 36 分発の北海道新幹線「はやぶさ 13 号」に乗って新函館北斗駅に向かう。

新幹線は津軽海峡の海底下約 100m を青函トンネルで渡る。1988(昭和 63)年に開通した全長 53.9km の海底トンネルである。2016 年にスイスの「ゴットアルドベーストンネル」が開通するまでは世界最長のトンネルであった。

新函館北斗駅着には 13 時 33 分到着。新青森駅から 1 時間である。

函館では五稜郭タワーと天使の聖母・トラピスチヌ修道院を見物する。

### 函館五稜郭と五稜郭タワー

五稜郭は箱館(現在の函館)開港時に函館山の麓に置かれた箱館奉行所の移転先として 1866 年(慶応 2)年に築造されたが、2 年後の箱館戦争で榎本武揚率いる旧幕府軍に占領され、その本拠地となった。

明治に入ると郭内の建物は兵糧庫 1 棟を除いて解体され、陸軍の練兵場として使用された。その後、1914(大正 3)年から五稜郭公園として一般開放されている。

五稜郭タワーは、五稜郭築城 100 年を記念して 1964(昭和 39)年初代タワー(高さ 60m)が建造された。

新タワーは 2006(平成 18)年にオープン。展望台から函館山や津軽海峡、横津連峰の山並み、そして特別史跡五稜郭が見られる。

新タワーの展望台は五角形、塔体の断面も星形を採用、徹底して五稜郭と星形をモチーフにしている。



五稜郭タワー



五稜郭タワーの展望台から眺めた五稜郭



五稜郭タワーの展望台

起床から始まる。起床後、祈りと読書、仕事を繰り返し、19時45分には就寝という厳格なタイムスケジュールで、厳しい戒律を一日も乱すことなく守り、生活している。

前庭の正面には「聖ミカエル像」が立っていた。

札幌五稜郭タワーとトラピスチヌ修道院には、2002(平成14)年9月に札幌で土木学会年次学術講演会があったときと、2014(平成27)年の社員旅行で来ていた。3度目であったので、感激はなかった。



前庭にある聖ミカエル像



トラピスチヌ修道院

### 天使の聖母・トラピスチヌ修道院

トラピスチヌ修道院は1898(明治31)年に創立された日本初の女子修道院である。

修道女たちの一日は、早朝3時30分の

### 函館海鮮料理「海寿」

旅行2日目の宿泊先は、函館国際ホテル。今夜の食事だけはツアーに含まれていなか

った。

夕食は、ホテルのベルボーイが紹介してくれた海鮮料理店「海寿」に行く。ホテルから徒歩3分の距離にあった。

毛ガニ、カキ、キンキー夜干し、赤ウニ刺バフン、イカ刺し、ボタンエビを食べた。値段は結構高かったが、新鮮で美味しかった。さすが北海道、函館である。



ボタンエビの刺身



キンキー夜干し



海鮮料理店「海寿」

## 函館から大間へ(10月12日)

函館国際ホテルを8時30分出発。タクシーに分乗して津軽海峡フェリーターミナルに行く。港ではカモメが気持ちよさそうに飛んでいた。

フェリー「大函丸」は全長約91m、総トン数1,912トン、旅客定員数478名、積載台数トラック21台または乗用車60台のフェリー。車両デッキから客室に上がるのにエスカレーターがあった。エスカレーター付きのフェリーは初めての経験である。

ツアーで予約されていたのはスタンダードの客室であった。90分間も床に座るのは疲れる。船員から椅子席としてファーストシートが2席、カジュアルシートが4席空いているということを知ったので、ドライバー差額を支払って、カジュアルシート4席を確保した。

大リーグのロサンゼルス・ドジャーズ対



津軽海峡フェリーターミナルビル内からの眺め



乗船した津軽海峡フェリー

サンディエゴ・パドレスの試合があり、大谷翔平とダルビッシュの対戦がテレビで放送されていた。

函館港を 9 時 30 分に出発したフェリーは、11 時に大間港に到着した。

昼食は、「おおま温泉 海峡保養センター」で「マグロ丼」を食べた。大間には本マグロしかないそうである。高知でいつも食べているキハダマグロとは味がまったく違った。美味しかった。



### 仏ヶ浦(10月12日)

昼食を済ませ国道 338 号を佐井村に向かう途中、多数の風力発電所が見えた。

佐井港を 13 時発の観光船「ニューしもきたV(定員 135 名)」に乗船して日本の秘境百選にも選ばれている「仏ヶ浦」に向かう。所要時間は 30 分。

佐井港では防波堤に使われる大型ケーソンの製作が行われていた。



風力発電



佐井港のケーソン製作ヤード



観光船「ニューしもきたV」に乗船

陸奥湾口の平館海峡に面した海岸沿いに 2 キロメートルわたって海蝕崖地形「仏ヶ浦」が形成されている。

1500 万年前の海底火山で噴出された火山灰が緑色凝灰岩となり、それが雨や波で削り取られて仏ヶ浦の奇勝を形成している。

高知県出身の詩人、歌人、随筆家・大町桂月が、仏ヶ浦を見て次の和歌を詠んでいる。

### 神のわざ

鬼の手つくり仏宇陀(仏ヶ浦の別名)

人の世ならぬ処なりけり





観光船から眺めた仏ヶ浦の奇岩



13時30分に仏ヶ浦港に到着



下船して記念撮影



スマートフォンで写真を撮る筆者



今日は妻の73歳の誕生日

### 本州最北端の地 大間崎

津軽海峡をはさんで、函館市汐首岬までの距離はわずか17.5キロメートル。天気のよい日は、函館の五稜郭タワーまで肉眼で確認できる。



本州最北端の地



大間の漁師に一本釣りされた 440 キロのマグロ



「むつグランドホテル」の夕食。妻・絹枝の誕生日を祝って乾杯。

### 恐山(10月13日)

「むつグランドホテル」を 8 時 30 分に出発。30分で比叡山、高野山とともに日本三大霊山といわれる「恐山」に到着。恐山の霊場は外輪山に囲まれている。

三途の川にかけられた太鼓橋を渡って霊域に入ると、死後の世界のような風景が広がる。

極楽浄土を思わせる美しさの極楽浜、硫黄臭が立ち込める地獄谷、荒涼とした無間地獄、血の池地獄などがある。

賽の河原には亡くなった幼い子供を弔うために両親が積んだ石や、くるくるとまわる風車があった。

恐山は1万年以上前に噴火したと言われる休火山。現在でも硫黄のにおいが漂う温泉が湧いている。



三途の川に架けられた太鼓橋



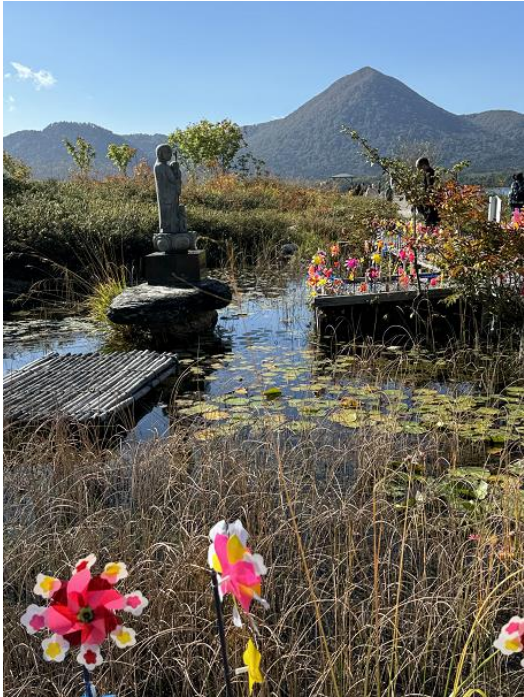
地藏殿



賽の河原



水子を弔う風車



水子供養の池



東日本大震災供養塔の手形



水子地藏と八角円堂



カルデラ湖「宇曽利湖」



東日本大震災供養塔



金堀地獄



六大地蔵



たわわに実った真っ赤なりんご

### 三沢空港へ

恐山観光の後は、国道 279 号「むつはまなすライン」を南に下る。途中、道の駅「よこはま」に寄る。

道の駅の横では、地域高規格道路の工事が行われており、プレキャストコンクリート部材を用いた大型ボックスカルバート（内空幅 10m）が施行されていた。

三沢空港へ向かう途中の東北町の「和幸」で昼食。小川原湖産の天然ニホンウナギ、コイ、ワカサギを使った料理を堪能することができた。

食事の後は、道の駅「おがわら湖」で土産を買う。

三沢空港では、真っ赤に熟れたリンゴがたわわに実っていた。



昼食後、バスガイド石戸谷千賀子さんと記念撮影

### あとがき

帰りは予定通り三沢空港 15 時 45 発のチャーター便に乗ることができ、18 時に無事高知龍馬空港に到着することができた。

満足する旅行の 3 条件は、天気、料理、宿泊施設と言われる。今回の旅行は天気、料理、宿泊施設だけでなく、観光バスガイド、高知新聞観光の添乗員、ツアー同行者のすべてに恵まれた。思い出に残る素晴らしい旅行であった。特に、添乗員の弘田さんには、いたるところで過分の気配りをしていただいた。

一つだけ後悔することは、八甲田山の山頂を散策中に滑って左足の太股の筋肉を痛めたことである。痛みは日ごとに和らいでいたが、逆に内出血は酷く、真っ赤になっていた。15 日に青山整形外科で診察してもらったところ、骨折、肉離れはなし。原因は筋肉からの出血。風呂には入らないようにと言われた。旅行期間中、朝夕と温泉に浸かり患部を暖めてマッサージをしていた。真逆の治療をしていた。

2024 年 10 月 16 日記